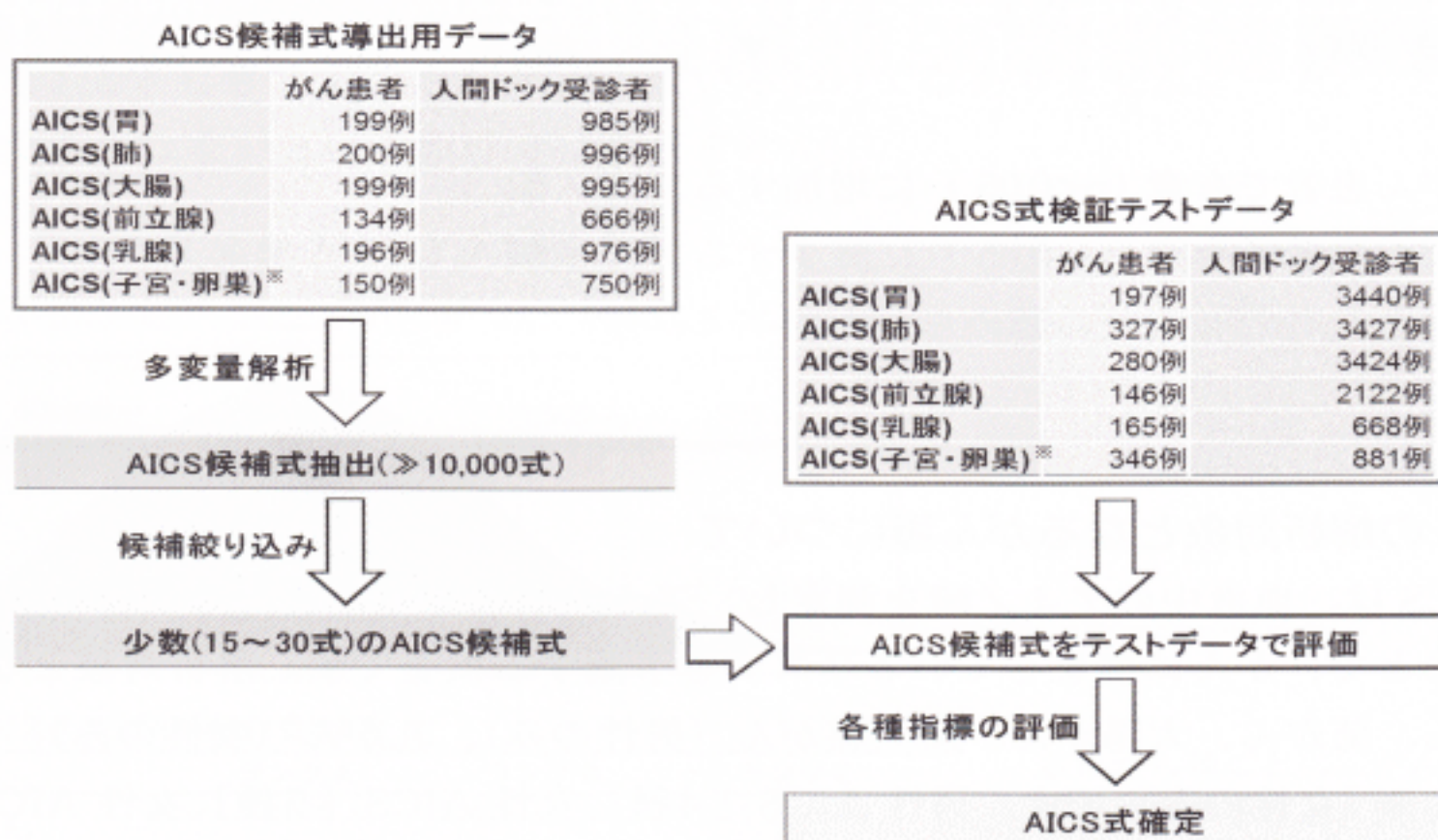


# AminoIndex® Cancer Screening (AICS)

血漿中のアミノ酸濃度バランスは健常者と比較してがん患者において、代謝の変化など様々な要因によって変動することが報告されています<sup>5)6)7)</sup>。そこで、アミノ酸代謝研究とバイオインフォマティクス技術を組み合わせた「アミノインデックス技術」を、がん領域に応用するために臨床研究が行われ<sup>8)9)10)</sup>、下図の AICS の導出フローに示すように、胃がん、肺がん、大腸がん、前立腺がん、乳がん<sup>9)</sup>、子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん<sup>10)</sup> のがん患者の血漿検体と健常者としての人間ドック受診者の血漿検体を比較し、がんリスクスクリーニングを目的とした AminoIndex® Cancer Screening (AICS) が開発されました。AICS は統計専門家の評価のもと、AICS 値の導出と検証を行っております。

AICS はこれまでの腫瘍マーカーとは異なり、複数のがんそれぞれに対するがんリスクを一度に判定することが可能であり、またステージⅡ期（もしくはB期）までのがんも対象にしていることから、リスクスクリーニングマーカーとして有用性が高いと考えられます。

## AminoIndex® Cancer Screening (AICS) の導出フロー <sup>9)10) 改変</sup>



※AICS(子宮・卵巣)は、子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんを対象として解析を行いました。

臨床研究施設は以下のとおりです。

神奈川県立がんセンター、岡山大学病院、大阪府立成人病センター、群馬県立がんセンター、千葉県がんセンター、静岡県立静岡がんセンター、横浜市立大学附属市民総合医療センター、横浜市立市民病院、横浜南共済病院、横浜市立大学附属病院、愛知県がんセンター中央病院、慶應義塾大学病院、三井記念病院総合健診センター、亀田メディカルセンター幕張、神奈川県予防医学協会

## AICS 検体処理方法

